

## 新年度を迎えて

理事長 大長 義信

皆様のご支援とご協力を頂き、平成29年度を迎える事が出来ました。この4月からは法人制度改革がいよいよ本格化し、とりわけ法人ガバナンスの強化として評議員と理事会の役割と責務が大幅に変わりました。すずらの会も確りとこれに対応して参りますので、皆様のご理解とご協力を頂きたいと存じます。

私達の携わる障害者福祉の分野も、世界的な大きな変革のうねりの中にあり先行きの不透明さが否めません。前期は

各事業所とも施設利用率の低さと人材確保の難しさに悩まされてきましたが、今後もこの流れは続くものと予想されます。事業形態の見直しや福祉の現場として魅力ある職場作りにも取り組んでいかなければならないでしょう。又、日常の忙しい事業運営の中にも私達が掲げた理念の実現を目指す事を忘れることはできません。

法人全体が少しでも前に進むことを念頭に置きながら、この一年を乗り切っていきたいと思えます。

## 児童の「余暇サークル活動体験」を行っています

余暇支援委員会では、児童の余暇サークル活動への参加を通して、有意義で楽しい時間を過ごしながら、集団行動に対する意識を育て、自身のステップアップに繋がる活動になるよう取り組んでいます。

発達支援部門“ばれっと”をご利用いただいている小学校6年生以上の児童を対象に、余暇支援サークルへの参加に向けた体験をご案内しています。

児童の参加対象は、美術サークル・華道サークル・サウンドタイムサークルの3種類あり、昨年度は12月から2月にかけて5名の児童が参加されました。

美術サークルを体験した児童からは「楽しかった」との声がきかれ、同伴された保護者の方からは「成人の方々の余暇を楽しんでいる様子が微笑ましく、個々の安定感に感動した」と感想がありました。

見学していたばれっとの職員からは、「初めての場所に緊張している様子でしたが、短い時間でも成人と一緒に活動に参加出来たことに、大きな成果を感じました。普段の療育では見られない姿を知ることができました」との意見がありました。

1回の体験だけでは十分に様子を知ることが難しいと思いますが、少しでも活動の内容や雰囲気を知っていただき、成人の方と一緒に活動できる、すずらの会ならではの余暇活動を知る機会になればと思います。今後も多くの児童のみなさんの参加をお待ちしております。

(余暇支援委員会)



(美術サークル体験の様子)



(サウンドタイムサークル体験の様子)

## 特集・その人らしい生き方の実現に向けて ～複数のサービス利用と、各種サービスの役割～

特集では、法人内の各種サービスを組み合わせて利用され、自己実現、及び自立した生活を送っている方の様子をご紹介します。今回取材した角田さんは、日中活動サービス、グループホーム、余暇支援など複数のサービスを活用して日々の生活を送っています。それぞれのサービスでどのように過ごしているのか、活動内容と角田さんの様子をお伝えします。

### 【日中活動】



フィルイン宮原所長

フィルイン（生活介護）に通所している角田さんは、長年市内の緑区にあるグループホームから公共交通機関を乗り継いで、約1時間半かけて通所していました。南区麻溝台にあるフィルインまで、通所の負担を軽減するため、平成29年1月に原当麻のグループホームへ引っ越して、40分程で通所出来るようになりました。

フィルインに着くと、午前中は企業等から受注している作業（耳栓の袋入れや郵便物の封入など）に取り組みます。作業内容は軽作業ですが、いずれも安定した作業量や正確性を求められるものばかりで、毎日、意欲的に取り組んでいます。

午後は、個々の希望に応じて、過ごし方を選択できる様になっています。作業以外に、近くの公園へウォーキングに出掛けたり、スケッチブックを持って写生に出掛けることもあります。また、地域活動として月に数回、老人ホームへのボランティア活動や、地域の自治会館へ出掛け、ボランティアグループの方々や地域の方と一緒に、創作活動等の交流活動に取り組んでいます。角田さんは外出活動への意欲が特に高く、毎回活動には積極的に参加しています。



（日中活動：通所の様子）



（日中活動：午後の絵画企画）

1日の活動が終了すると、掃除の時間になり、終礼に参加して帰宅になります。角田さんは、清掃業務で企業への就労経験もあり、清掃は自信のある分野でもあります。特にトイレ掃除は、職員も見習うほど隅々まで綺麗に行ないます。角田さんは、フィルインを10年以上利用していますが、日々手厚い見守りの中、安定した生活を送ることが出来ています。

フィルインでは就労支援系の事業所とは違い、ゆったりと時間に余裕を持って活動に取り組めます。様々なニーズを持った方が利用するため、一つひとつ個々のニーズに応えていく事になります。自分のペースにあった過ごし方で生活したいというニーズを持った方にも、ぜひ利用していただきたいです。



（日中活動：封入作業の様子）

### 【グループホームでの生活】

グループホームは、障害のある方が家族から離れて地域の中で自立した生活を送るために、職員（世話人）の支援を受けながら日々を過ごす場所です。角田さんは約19年間、グループホームを利用しています。

朝7時頃に起床し、朝食（事前に職員が調理）を温めて食べます。8時頃にホームを出て、バスで日中活動先のフィルインへ通所します。以前よりも通所時間が短くなり、余裕をもって、朝の支度をする事が出来るようになりました。

日中の活動を終えて夕方ホームに帰宅すると、夕食までの間、日中の出来事など職員との談話を楽しんでいます。夕食（職員が調理）後は、ホームでの生活のルールに沿って自分の使用した食器の片付け、洗濯、室内の清掃などを分担して行います。服薬など支援が必要な部分では、飲み忘れ等がないか、職員も確認をしていますが、基本的には服薬カレンダー等を使用して、自分で管理をします。



（グループホーム：夕食後の食器洗い）

角田さんにグループホームの生活について聞いてみました。

**Q. 普段どのように過ごしていますか**

A. 部屋ではテレビを見たり、音楽を聞いたりして過ごします。クイズ番組や歌番組が好きです。音楽はSMAPの曲を聞くことが多いです。週末はスーパーへ買い物に出掛けたり、本屋へ立ち寄り、のんびり過ごしています。

**Q. やってみたいことはありますか**

A. 相模大野に行きたいけど、まだ行き方が分からないので、今度ガイドヘルプを利用して行ってみたいです。

**Q. 引越して良かったことは何ですか**

A. 現在のホームはフィルインに近いので便利です。現在のホームの世話人が、以前に住んでいたホームでも働いていた方なので、知っている職員で良かったです。



宮崎世話人

世話人からの言葉

「お風呂入ります」「掃除終わりました」など、しっかりと報告ができる方なので、他の利用者にも良い影響を与えることを期待しています。

### 【余暇サークルへの参加】



菅原職員

ダンスやボウリングなど運動系のものから、芸術や料理、英会話など、各種の余暇サークルがある中、角田さんはいつもカラオケサークル（カラオケボックス）に参加しています。選曲は、90年代から現在にいたるまで幅広く、主にJ-POP特に男性ボーカルの曲を好んで歌っている印象があります。角田さんがいつも歌うお決まりの曲 J-Walk の「何も言えなくて…夏」は、とても上手で、みんなが聞き惚れてしまいます。グループが盛り上がると、角田さんの笑顔も増え、楽しそうな様子です。

### 【ガイドヘルプの利用】



塩澤ヘルパー

休日は、ヘルパーとカラオケボックスや日帰り温泉などに出かけています。時にはランチを含み日中いっぱい、趣味や息抜きをして過ごすこともあります。

ガイドヘルプを利用時のカラオケは、大勢での活動とは違い、自由に時間を使えるため、たっぷり2～3時間歌います。角田さんから「ヘルパーさんどうぞ」という優しい言葉を掛けてくれるので、懐かしい曲や楽しい曲に共感しながら、一緒に歌っています。他にも、健康維持を目的に、体育館のジムで汗を流すこともあります。リフレッシュしたあとは笑顔で「また月曜日から仕事頑張ります！」と、いつも笑顔で「楽しい」、「美味しい」、「気持ち良い」など言葉で表現してくれるので、活動を楽しんでいる様子がよく伝わってきます。

角田さんを支援する関わり



このように、複数のサービスを上手く利用して、本人の生活全般を安定したものにするには、各種事業所の手厚い支援が不可欠です。さらには、本人の希望に、より近づくためにも、相談支援機関を中心にして、その人にあった支援をスムーズに提供していく事が、その人が望む地域生活を実現する条件になると実感しています。

今回の特集記事について、角田さんご本人より掲載の了承をいただいております。（取材編集：広報委員会）

## 平成 28 年度の利用者聞き取り調査報告

サービス向上委員会 委員長 平原 輝代



8回目の実施となった今年度の利用者聞き取り調査も、法人施設における日常支援において虐待、及び虐待につながる不適切な対応がなされていないかを客観的に確認する。そして、結果を全職員で共有し、より良い支援となるよう日常業務に活かしていくことを目的とし調査を行いました。

今年度は通常の聞き取り調査に加え、タートル(生活介護)については事業所に聞き取り員2名が別々に1時間30分程度日中活動を視察して虐待、及び虐待につながる不適切な対応がないかを確認しました。

今回の聞き取り調査でも「困った時に相談するとスッキリする」「待たされる時は理由を説明してくれる」等、概ね満足の回答が多い反面、少数ですが「よそ見をしていると誤解された」「忙しくて聞こえないのか返事がない時がある」等の不満や「職員がいない時に他の利用者から嫌なことをされる」等、利用者間のトラブルについて回答もありました。

また、職員の言動に対するご意見と、入浴時間やおこづかい増額について要望があり、3件は苦情システムへご意見・要望として報告しています。調査票の開示については48名が承諾されましたが、2名は条件付き承諾となっており、今後も“思いを伝える場”の確保が大事になっている事がうかがえます。

タートルの視察については、利用者の特性に配慮した環境の整備や対応がなされていましたが、利用者の動向や身だしなみ等を見守り支援する役割分担等、検討課題も発見できました。

まとめとしては、極めて緊急性の高い回答はないのですが虐待に繋がりがかねない対応があるため、職員のスキルアップなど福祉の専門職として利用者に関わることの自覚の育成や職員配置等、組織全体で取り組む事が必要です。

## すずらんの家 サービス種別変更のお知らせ「多機能型事業所」へ

すずらんの家 施設長 辰口 大樹

すずらんの家は、平成28年度まで就労継続支援B型事業(定員20名)単独の事業所として運営して参りました。

今年度4月からは、利用されている皆さまの個々のニーズに沿った、健康管理など日常生活の支援もさらに充実させるため、就労継続支援B型事業(定員10名)と生活介護事業(定員10名)を行う、多機能型事業所として新たにスタートしました。

現在の地(新磯野)に施設兼店舗を構えて9年が経ち、焼き菓子の製造販売を主とした活動をしております。店舗をリニューアルオープンして以来、着実にお客様の来店者数が増

え、企業や高齢者施設への定期販売やバザー出店も順調に増えてきています。こうした取り組みにより平成27年度利用者平均工賃は、神奈川県就労継続B型事業所年間平均工賃13,704円のおおよそ倍額となる27,550円を支給する事が出来ました。これも利用者職員が日々努力してきた結果と感じております。

これからも、お客様に喜んでいただける商品を提供し、地域に根付いた店舗営業をしていきたいと思っております。

## すずらんサロンコンサート2017開催のご案内

日時：平成29年7月8日(土) 14:00 開演(13:30 開場)

会場：相模原市立市民健康文化センター ふれあい広場

出演：style-3! 麻溝台高等学校 合唱部のみなさん

♪♪ 多くのみなさまのご来場をお待ちしています



### みなさまからのご厚意に感謝申し上げます

(寄付) 小林 明子 様

(寄付) スリーエムジャパン労働組合 相模原支部 様

(寄付) 朝倉自動車整備工場(有) 様

温かいご理解を賜りましたことに、この場をお借りしまして深く感謝申し上げます。

### 編集後記

今回の特集は、1人の利用者にはスポットを当てて、日々の生活において法人内の複数のサービスを活用している様子をお伝えしました。記事を通して、法人の事業内容の他、各種サービスの組み合わせの仕方により、自己実現に向けての可能性が秘められていることに、興味を持っていただけたら幸いです。(杉本・石田)